



課題推進チーム 環境

ゼロ
エコパル山梨ごみ0係ニュース

◆◆◆ あなたが主役！ ◆◆◆ Vol.2

プロローグ 企画のきっかけ なぜ大学生と？！

2022/4/23 山梨日日新聞掲載「気候変動対策 学生訴え」の記事を読んだメンバーの提案で、本企画がスタートしました。新聞記事には、都留文科大学の学生達が団体を立ち上げ、活動を展開する様子が紹介されていました。私たち組合員のほとんどは環境教育とは縁遠い世代ではないでしょうか？ 出生時から気候変動や環境問題が叫ばれ、小学生時代から学習している若い世代の生の声を聴き、気付きを得たい、そんな気持ちから組合員2名と職員1名が中心となって、都留文科大学のサークル「しえあはび」に所属のSさん（プロフィール 紙面右上に掲載）に協力していただき、内部学習会としてフリートークイベントを開催しました。

◆開催日時：9/15(木) 17:30～18:30 ◆参加者：都留文科大学サークル「しえあはび」学生1名+環境メンバー8名
◆開催形式：職員は本部事務所より、他参加者は各自宅より zoom にてオンライン
組合員メンバーがファシリテーター（進行役）となり、フリートークが繰り広げられました

様々な意見や質問が飛び交い、Sさんからは、私たちの想像以上に重みのある発言をたくさんいただきました。紙面の都合ですべてをお伝えできず残念ですが、ハイライト発言集としてまとめましたので、是非お読みください！

トーク1 学内でのごみ分別状況 大学構内のごみ箱、学食の様子は？

進行) 私たちチームのテーマは「ごみを減らす」ですが、大学構内でのごみ分別についてお聞かせください。

Sさん) 燃えるごみと、ペットボトル、缶には分かれて、各建物の前に分別された箱があります。

進行) 学食での食器と返却方法は？

Sさん) ほとんどプラスチック食器だと思えます。割り箸ではなくて洗える箸を使います。納豆の容器とかふりかけの袋、ティッシュなどは返却場所にごみ箱が設置されていて、そこに捨てています。食器は流水でざっと洗って置くような形で、食べ残しは水と一緒に流れていきます。残飯を集めて堆肥化するようなことはしていないと思います。

組合員) やはり、ペットボトルのごみは多い？

Sさん) 僕はペットボトル全く使わないので、はっきりとは分からないですけど… 大学生がムダにペットボトル買いすぎじゃないかなって感じていて、マイボトル持てばペットボトルなんていらぬのに。

トーク2 暮らしの中でのごみ事情 家族構成によって出るごみもいろいろ

進行) 一人暮らしが一番ごみの割合が多いものは何でしょうか？ 実家暮らしのときとの違いは？

Sさん) 食品の包装っていうか、トレーとか、袋とかそういうものが多いかな、あとはチリ紙、よく鼻をかむことが多いので… 実家との違いは、あまり感じていなくて、でも母はペットボトルを買って飲むことがあります。まあ、ペットボトルのごみがだいぶ減ったかなってところですよ。

進行) では、小さい子供を持つメンバーにも聞いてみましょう。

組合員) 小学生と幼稚園の子供がいます。子供がいるとおやつとか、お菓子とか個包装のごみがすごく増えたと感じています。それと台所から出るものが一番多いです。小学校・幼稚園では『廃材遊び』をしていて、「廃材ちよーだい」ってほとんど毎日廃材を持って行って、何かしら作って帰ってきます。「廃材」という言葉を3、4歳児が知っているって… 子供たちから、ごみの問題に気付かされたり、子供がいる家のごみの多さを感じています。

トーク3 デジタル化の現状と紙ごみ デジタル化は進んでいる？ 大学/パルシステムの現状

進行) 紙のごみとデジタル化について話を進めましょう。講義資料やレポート提出、テスト等は紙媒体？

Sさん) 僕は今年生ですけど、今のところはほとんどがデジタル、インターネットを通じた提出になって、紙での提出っていうのはホント少ないですね。パソコンやネット環境は個人負担な面が多いです。

進行) では、パルシステムの職員会議ではどうでしょう？

職員) 紙ベースなどが多いというか、なかなかデジタルへ切り替わってないところがあります。パル山梨の場合は、色々な方が色々な環境でアクセスしてくるので、この条件でのデジタルっていうのがなかなか統一が難しい面もあって、旧来の紙っていうところに依存してる所が多いかな…

進行) 組合員目線ではどうでしょう？

組合員) 注文はアプリで完結できるので、紙のカタログが配布されるけど全く見ません。リサイクルされますが、ペーパーレスを進めてほしい。印刷コストがかかるし、環境面を考えると CO2排出問題もあります。紙カタログ要・不要、双方の意見をバランスよく汲み取って、どちらも満足するようなくみを作ってもらいたい。『ゼロ・ウェイスト』（ごみをゼロにすることを目標に廃棄物を減らす環境社会政策）が進めばいいなあ、と思います。

◆内部学習会◆ 都留文科大学サークル しえあはび & パル山梨 課題推進チーム 環境 フリートーク 開催報告

【参加学生プロフィール】
Sさん 都留文科大学1年生 18歳 大学入学を機に一人暮らしを開始
小学生の頃、ドキュメンタリー番組で世界の貧困問題に関心を持つ。
高校2年、進路選択時に原 貫太氏※1のYouTubeを視聴して気候変動の問題の深刻さに気付き、調べるうちに「Fridays For Future」※2を知る。
「自らアクションしていかねば！」と強く感じ、上記がきっかけとなり入学後、環境問題・社会問題情報交換サークル「しえあはび」および「Fridays For Future Yamanashi」で意欲的に活動中。

※1: フリーランス国際協力師 どの組織にも所属せず、国際協力活動に関わっている
※2: スウェーデンの環境活動家、グレタさんが行った気候変動に関する呼びかけに、世界中の人々が賛同し設立された国際的な草の根運動

トーク4 地球温暖化や環境問題 学生から組合員世代へ ズバリ！いいたいことは？

進行) Sさんは子供の頃から「環境教育」を学んでいますが、生まれたときから地球温暖化、環境問題が騒がれていますよね。その原因を作ってしまった私たち世代、それ以上の世代にいいたいことをお願いします。

Sさん) 小学校からの環境教育、僕としては全然足りないと思っていて、「気候変動」は自然災害を起こしたり、熱波や感染症の拡大とか、食糧問題とか、色々な問題を引き起こすことを知らなかったので、子供の教育としては、まだまだじゃないかなって思います。僕は、大人の世代より若者世代にいいたい、っていうのが大きいんです。若者の中には、高齢者のほうが多いから、若者の政策は通らないっていう人がすごくいるんですけど、僕的にはとても違和感があって、若者自身が、それに興味関心がなくて投票していない。若者がちゃんと自分から興味を持って、意識を変える、少しずつできることからベストを尽くさなきゃいけないって思っているの、大人の世代よりも、若者世代にいいたいってことがあります。大人世代に言うとしたら… 政治が政策を変えていかねばならない、と考えています。大人の世代にいいたいってことはあんまりなくて、あるとすれば、『一緒にアクションしましょう!』

進行) 今の話聞いて、嬉しくなりました。若い方たち、さらには小学生や幼稚園生の教育をもっと広げていって、問題提起をしてもらえると、今まで関心のなかった私たち世代も、気付きがあるのではないかなあ…

Sさん) 僕個人としては、ひとりひとりが変わって、政府とかにアクションを起こす、大きい組織から、政府がちゃんと環境に配慮した政策を打ち出さないと。政府からホントは変わっていかなくちゃいけないって思っています。

トーク5 しえあはび 今後のアクション

大学の再生可能エネルギー導入に動いていて、7月に学長へ『再エネ化』の話をして、「導入しましょう!」ってアクション起こしたのですが、あまり響かなかった… 再エネに動いたほうが、経済的にも社会的にも良くなってデータを集めていて、また機会をいただいて、大学の再エネ化導入へ動かしていきたい。

スーパーへのアクションを頑張っています。省エネの観点で、冷蔵・冷凍食品棚へのドア設置、僕が取り組んでいるのは『量り売り導入』。食品トレーとか、『ゼロ・ウェイスト』を進めていかねばならない。あとは、生ごみ。生ごみを集めて肥料を作るコンポストみたいなことをやっています。

もうひとつ、Fridays For Future では、今僕のバーチャル背景で、「世界気候アクション0923」が9/23にあり、進めています。詳細はインスタグラムで投稿しますのでご覧ください。ごみ拾い活動とグレタさんがやっているようなプラカードを持って啓発活動をする予定です。

「しえあはび」としては、実際に社会を動かすのはハードルが高いけど、「大学から変えていく」、「地元のスーパーから変えていく」とか、アクションを大切にしていますね。社会を動かすことは、すごく大事だと思っています。

エピローグ もう一度考えよう！ 環境のこと、ごみのこと、そして未来のこと

若い世代の現状や環境問題（特にごみ問題）についての考えや思いを知りたくて、沢山の質問をしました。Sさんはどのような質問にも丁寧に、的確に、そしてご自身の考えや思いも、きちんと織り交ぜながら答えてくれました。話を聴くうちに、私たちの認識が「地球温暖化」「環境問題」止まりで、具体的な「気候変動」の深刻さに行き届いていなかったことを痛感しました。特に印象に残っているのが「トーク4」の質問をしたときです。今、起きている様々な環境問題を大人たちのせいにするのではなく、自分たちの問題と受け止め、しっかり未来を見据え、アクションを起こしています。私たち大人はどうでしょう？ 何かアクションをしていますか？ 「もう、間に合わない。」とあきらめていませんか？ 一人一人の意識で、少しずつでもごみを減らすことができるはずですよ。

- 無駄なものを買わずに本当に必要なものを買う
- 使い捨てのものやプラスチックのものを避ける
- 再生品や繰り返し使えるもの、長く使えるものを買う
- 不要なものや余計なものは「いりません」と断る

等、私たちの日頃の生活から意識して、行動に移すことは可能です。若者たちの未来のために、まずはできることから始めてみてはいかがでしょうか。皆で行動すれば後にそれが常識となり、社会を動かすことができるかもしれません。この企画を通して、同じ「今」を生きる人同士でもっと繋がり、できることを一緒に考え、行動していきたいと感じました。

この紙面は、組合員 I、組合員 H、職員 O が担当しました。

Let's take action!

Instagram QRコード

しえあはび
Fridays For Future Yamanashi

アクション
しましょう!